

かしこい(エシカル)消費者になろう

学校教育における普及・啓発

地域活性化

地産地消

伝統

上板町立高志幼稚園・小学校

所在地：徳島県板野郡上板町高瀬字天目1108
沿革：大正8年に「徳島県高志尋常高等小学校」として発足。昭和31年に改称。
児童数：幼稚園 男子14名/女子11名/合計25名
(平成30年11月5日現在)
小学校 男子69名/女子77名/合計146名
(平成30年11月5日現在)

○事業・活動の概要

上板町立高志幼稚園・小学校では、「高志から上板町を元気にしたい」との思いから、地域の産業を学びながら、エシカル消費を考える取組を行っている。

徳島の伝統工芸である藍染めの6次産業の体験や、町内にあるブランド豚「金時豚」の養豚場で飼育から出荷、食卓に並ぶまでの一連の流れに自ら関わるなど、生産者の苦労や思いを体感することで、「残さず大切に食べよう」等といった消費者意識の芽生えにつながっている。

○幼稚園の取組

幼稚園では、園児自身がお麩ラスク作りから販売するまでを実践した。バターの原料となる牛乳を得るために酪農家での餌やり・搾乳体験から始まり、スーパーマーケットでの買物体験、ラスク作りとパック詰め、お店の装飾と値段表の作成、保護者への販売から売上計算まで、生産から製造、販売に至るまでの一連の流れを体験した。

園児たちは、初めはお金の価値を理解できていなかったが、この体験を通じて、100円単位であればお金の計算ができるようになり、お金の価値について理解が深まったようである。普段の買物でも値札を確認したり、探し物を店員に聞くようになったりと、社会との関わりを持つ実体験が日常生活にしっかりといかされているようである。

○小学校の取組

小学校では、5年生の児童たちが徳島県の伝統工芸である「藍染めの6次産業」に挑戦し、エシカル消費について学んだ。

夏から秋にかけて、藍畑での藍の収穫や、藍染めの染料の「染」作りなど、一連の工程を児童たちが自身で行った。また、この間に藍染めの技法を学び、自ら収穫した藍を使ってランチョンマットを染めた。

完成した25枚のランチョンマットは、PTAのバザーで1枚2,500円で販売し、完売した。保護者からは「少し値段が高いのでは」との声もあったようであるが、収穫から製品になるまでの工程を体験した児童たちは、ほとんど利益の

出ない価格であることを理解しており、ものづくりの楽しさを学ぶだけでなく、エシカル消費につながる製品のコストの根拠を考えるきっかけにもなったようだ。

来年度は、児童自身が消費者のニーズを踏まえた上で、エシカル消費につながる製品を購入してもらえるように、企画から値段設定・販売までを実践する計画で進めている。

平成31年1月26日には、徳島市シビックセンターで開催された「とくしま環境学習フォーラム」に5年生の代表3名が参加し、「SDGsの達成を目指して～豊かな自然がつくる地域の産業から学ぶ～」をテーマに、うなぎの養殖を体験した3年生と共に、100名近くの参加者の前で自身の取組を堂々と発表した。



○今後の目標

今回インタビューをさせていただいた校長先生は、日頃から「子どもたちが世界を変える」というメッセージを児童や教員に伝えるとともに、エシカル消費やSDGsについて学ぶ機会を作り熱心に取り組んでいる。

紹介した取組以外にも、5・6年生の児童を消費者志向自主宣言企業を訪問するバスツアーに参加させ、企業の担当者とコミュニケーションを図る場も設けている。

こうした同校の様々な取組は、児童たちの社会参画への意識を高め、自分たちの消費行動が世界を変える可能性があることを幼少の頃から意識し、理解してもらうことを最大の狙いとしている。

上板町には金時豚や藍染めのほかにもうなぎの養殖やにんじんの生産も盛んに行われている。同校では、これまでの取組に加えて、うなぎやにんじんを活用した新たな取組等の検討も進めていくこととしている。

公表日：令和元年5月31日 取材：平成31年3月
外部リンク：<https://e-school.e-tokushima.or.jp/kamiita/es/takashi/html/htdocs/>